

事業計画書

①団体名	北振バス 株式会社
②事業名	備中神楽定期普及公演「三日月神楽」の開催
③テーマ区分	番号：3 備中地域の魅力・伝統文化の発信
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 (経過措置)
⑤現状及び課題	国指定重要無形文化財に指定されている備中神楽であるが、地元での奉納や地元の商業施設における興行が主であり、県内外からの観光客やインバウンドのお客様向けの公演や情報発信がほぼ行われていない。 令和5年度、井原市地域おこし協力隊との連携事業として行った「三日月神楽」の公演は一定数の新規顧客の取り込みに成功したが、告知・プロモーション等予算の関係であまり効果的な施策を行うことができなかった。公演自体のお客様の反応や感想、地元の活性化等の効果は把握できたので、より多く、特に県内外へのお客様へのプロモーション強化が今後の課題であると考えている。
⑥事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・備中神楽定期普及講演の開催 ・県内外へ向けてのプロモーション強化及び体制作り ・次年度以降の収益化へ向けての体制作り
⑦事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ(狙い)、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>1 位置づけ(狙い) 県内外の「観光客」向けに定期的に備中神楽公演を行い備中神楽の普及と観光コンテンツとしての磨き上げを行う。</p> <p>2 概要 4月より月に一回、井原市美星町 中世夢が原「神楽民族伝承館」において有料の備中神楽公演「三日月神楽」を開催する。 神楽の開催に当たっては近隣施設である「美星天文台」との連携を図り、天体観測に適した「三日月の夜」前後を開催日時として設定する。</p> <p>3 対象者 <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の観光客、備中地域の神楽ファン ・演者としては大賀社をベースとするが、広く備中地域の若手太夫や実力者への出演を依頼する。 ・子供神楽の生徒 </p> <p>4 実施地域・方法 定期公演として、月に一回井原市美星町にて開催する。左記とは別に倉敷等の県内都市部にてプロモーション公演を実施する。天文台への送客が確実にいえるよう、一回の公演は約2時間程度とし、備中神楽の各演目の中心部分3～5演目を行う。</p> <p>2023年度に実施した公演のフィードバックを元に、休憩時間での千道(ちみち)や御幣(ごへい)のワークショップ等も企画する。 また、毎回数名子供神楽の生徒を招待し、最高レベルの舞台を体感する機会を創出する。 公演期間は4月より月一回、9月までの計6回を本事業対象とするが、6回の公演終了後も、今後事業を継続するための検討等を行う</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p>

	公演にかかる費用を元に、アーカイブ動画の作成等を検討する。 (次年度以降のプロモーション等で利用)											
⑧事業の条件及び アピールポイント	先進性、先駆性、独創性 「対外向け」「定期」の公演を行い、広く備中神楽の魅力を内外に発信すること。											
	備中地域への波及効果 ・秋の神楽シーズン以外における公演時間の確保 ⇒ シーズン外に行うことで太夫の技術・モチベーション確保に多大な効果があることが、令和5年度の公演にて実証済み ・定期公演継続による参加する太夫の増加											
	その他、団体の持つ専門性やノウハウ等											
	・令和5年度10回の定期公演を実施。地域おこし協力隊との連携によりスムーズな公演の運営実績あり ・社内に太夫を複数抱えており、神楽に対しての支援も継続的に行ってきた社風のため、運営に対する熱意が強い											
⑨今年度の事業による直接の結果 (アウトプット)及びその評価指標・評価方法 ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	<ul style="list-style-type: none"> ・定期公演を4～9月まで毎月一回、計6回開催 ・プロモーション公演1回開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期公演開催回数 の達成度</td> <td>計画に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>プロモーション公演 開催回数 の達成度</td> <td>計画に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	定期公演開催回数 の達成度	計画に対する割合	100%	プロモーション公演 開催回数 の達成度	計画に対する割合	100%		
	評価指標	評価方法	目標									
	定期公演開催回数 の達成度	計画に対する割合	100%									
プロモーション公演 開催回数 の達成度	計画に対する割合	100%										
⑩今年度に 期待される成果 ・効果(短期ア ウトカム)及びその 評価指標・ 評価方法 ※事業が複数の 場合は、事業 ごとに分けて 記載	事業参加者											
	定期公演の有料入場者数250名											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有料入場者数</td> <td>人数</td> <td>250名以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	有料入場者数	人数	250名以上					
	評価指標	評価方法	目標									
	有料入場者数	人数	250名以上									
事業実施団体												
<ol style="list-style-type: none"> 1 魅力的かつリピーターを飽きさせない企画案の作成 2 複数社中の参加による裾野の拡大、定期公演への理解の普及 3 多様な太夫による公演の実施による経験値増及び活躍の場の提供 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>お客様満足度</td> <td>アンケート 調査</td> <td>お客様満足度80%以上</td> </tr> <tr> <td>参加社中の数</td> <td>社中の数</td> <td>3社中以上</td> </tr> <tr> <td>太夫の種類</td> <td>参加太夫の 出身地</td> <td>3地域以上からの参加</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	お客様満足度	アンケート 調査	お客様満足度80%以上	参加社中の数	社中の数	3社中以上	太夫の種類	参加太夫の 出身地	3地域以上からの参加
評価指標	評価方法	目標										
お客様満足度	アンケート 調査	お客様満足度80%以上										
参加社中の数	社中の数	3社中以上										
太夫の種類	参加太夫の 出身地	3地域以上からの参加										
	備中地域											

	1 複数社中による公演の実施による、外部向け公演機運の醸成 2 来年度ツーリズムEXPOにおけるポスター、案内等の掲示機会の創出（今年度JR西のブースにて、広島（安芸神楽）、島根（岩見神楽）のポスターに挟まれた岡山には神楽の掲示なし）		
	評価指標	評価方法	目標
	参加社中の数	社中の数	3社中以上
	ツーリズムEXPOにおける掲示	ツーリズムEXPO参加の備中関連地域ブースにおけるポスター掲示	1か所以上
⑩将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム） ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	事業参加者		
	備中神楽が観光コンテンツとして独り立ちし、ツアーや個人、インバウンド旅行者の備中地域への訪問目的として備中神楽が重要な位置を占めるようになる		
	事業実施団体		
⑪事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）	1 地域内向けの活動に加え、地域外への情報発信、集客への意識が醸成される。 2 神楽シーズン（9～12月）以外においても活動を行うことにより、技術力の向上と伝統芸能の継承を通年を通して図る体制が作られる。		
	備中地域		
	「備中神楽」を稼げる「観光コンテンツ」として育成、発展させるモデルケースを作り、地域内全域にて同様の取り組みを進めていく人材が育成される。		
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）			令和5年度実施の三日月神楽では資金的な制約もあり、プロモーション等がほとんどできなかった。にもかかわらず、半年で200名前後のお客様に有料での鑑賞を楽しんでいただいた。観光コンテンツとして有料での提供については実証されているのでプロモーションの強化による有料入場者数の増加が必要であると考え

<記入上の注意事項>

- 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 「④補助回数」欄の2回目は、経過措置規定を適用した上で、令和5年度事業に採択された事業を令和6年度以降も継続実施している場合のみ選択ができます。
- 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
4月	第一回公演 (4/13)	美星町神楽民族 伝承館	30名
5月	第二回公演 (5/11)		30名
6月	第三回公演 (6/8) プロモーション公演 (倉敷：6月後半予定)	天満屋倉敷	50名
		美星町神楽民族 伝承館	40名
7月	第四回公演 (7/6)		40名
8月	第五回公演 (7/20)		30名
9月	第六回公演 (8/10)		30名

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。